

八の至福—約束されている祝福  
哀れみ深い者の祝福

- 5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとにきた。  
5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。  
5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。  
5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。  
5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。  
5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。  
5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。  
5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。  
5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせる  
とき、あなたがたは幸いです。  
5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前  
にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

### はじめに

今日から八の至福の後半に入ります。今日もこの教えを唯一完全に実現したイエス様の人格の美しさを  
見ながら、イエス様は私達一人一人の中で実現させて下さる生き方を学びたいです。

#### 1. 哀れみ深い者の意味

5:7 「あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けるからです。」  
イエス様自身が山上の垂訓の中で説明して下さっているし、八の至福と同じ順番で書いてあります。  
先週は6章の終わりの部分について話しました。特に6:33です。「だから、神の国とその義と  
をまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」  
それは神様の義に対して飢え渴いている人の祝福です。その直後にイエス様による哀れみ深い人  
の説明が書いてあります。

7:1 「さばいてはいけません。さばかれないためです。7:2 あなたがたがさばくとおりに、あなた  
がたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。」

簡単に言いますとイエス様の教えた哀れみ深い人の意味は他の人を裁かない人です。イエス様の  
美しい人格が自分の中で宿り、それを表したいと思っているなら、どんな時でも、他の人を裁か  
ないようにしなければなりません。

このイエス様の命令は簡単な言葉で言われています。複雑な分かりにくい言葉は何も言われてい  
ません。

7:1 「してはいけません。」という言葉は誰でも分かります。でも、不思議な事に、こんなに  
分かりやすい言葉で命令しているのに、本当に心の中で分かっている人は少ないようです。と言  
うのは、これを実行している人はそれ程多くないからです。私も痛い経験によってやっと心の中  
でこのことが分かるようになりました。クリスチャンとして未熟だったころは他の人の欠点を指  
摘してそれを正す権利があると大きく間違っていて考えていました。言葉が分かりやすくて、実行  
するのは簡単ではないので、イエス様は念の為に7:3-5で更に詳しく説明して強調しています。

7:3-5 「また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつ  
かないのですか。7:4 兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください。』などどうし  
て言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。7:5 偽善者たち。まず自分  
の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除く  
ことができます。」

ここまで読むと間違った解釈が生じます。特に5節を間違って解釈する事があります。

7：5のイエス様の言葉を間違って解釈するクリスチャンは少なくありません。私もかつてそうでしたが、他にも沢山そんなクリスチャンを見て来ました。クリスチャンになってから、気を付けないとイエス様を知らない未信者達よりも、ひどく厳しく人を裁く人間になってしまう可能性があります。私はこの八の至福と山上の垂訓の教えの順番は偶然ではないと最初から繰り返して言っていますが、今日の箇所にもそれが見られます。義に飢え渴いている人は、神様の義を与えられ、完全に赦され、神様に受け入れられている人ですが、そのせいで靈的に傲慢になる可能性が生まれてしまいます。そうになってしまえばあなたは偽善者だとイエス様は言っています。なぜなら、いくら頑張っって一生懸命に努力しても神様の目から見て自分の義（正しさ）は全くないからです。イエス様の義（正しさ）によって赦されて受け入れている事を忘れていています。使徒パウロの経験を見ると分かる通り、いくら清められても靈的に傲慢になる可能性があります。

コリント第二12:7-9 「また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。12:8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。12:9 しかし、主は、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」

この箇所から、また、とても深い神様の働き方についてたくさん学べる事がありますが、きょうは一つだけ覚えて頂きたいです。使徒パウロ程清められて神様に用いられる人はいないと思いますが、そのパウロでも、はっきり言っています。7節「私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。」肉体のとげは痛いものです。しかも、一生神様はそれを取り除かないと言われました。罰（ばち）や神様の怒りではなくて、愛ある守りとして与えられていました。神様はその祈りを聞かれなかったのではなくて、聞かれたけれど、はっきりと「いいえ」と答えられました。神様の私達に対する取扱いが罰（ばち）や怒りではなくて、父なる神様の愛の最善しか許されない事を覚えて頂きたいです。今日は父の日ですが、イエス様の教えの一番の基本の中の基本は、神様はあなたがたの天のお父さんです。完全な愛で全能の天の父なる神様としていつも、あなたの味方として見て下さっています。

それにしても、厳しい取り扱いの時もあるから、余分な厳しさを自分に招かない為に人を裁かないで哀れみ深い人になりなさいと教えて下さっています。

## 2. イエス様の手本

イエス様の哀れみ深さの姿を考えますとすぐ思い浮かぶ聖書の箇所はヨハネの福音書8章です。

ヨハネ 8:10 「イエスは身を起こして、その女に言われた。『婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。』8:11 彼女は言った。『だれもいません。』そこで、イエスは言われた。『わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。』」

話の流れを簡単に説明しますが、当時の法律では姦淫が見つかったら、石打の死刑が決まっていました。国の指導者達はその現場で捕まった女性をイエス様の所に連れて来て、イエス様を告発する理由を作る為に連れて来た6節に書いてあります。イエス様の答えは素晴らしいです。

8:7 「けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。『あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。』」

誰もその女性を罪に定める事が出来なかったから、皆帰った後でイエス様は11節で「私もあなたを罪に定めない。今からは決して罪を犯してはなりません。」と言われました。指導者達はその女性を裁く事が出来なかった理由は、自分にも罪があるからでした。でも、全く罪のないイエス様は唯一彼女を裁く権利があったのに、赦してあげて裁かなかったのです。その続きを読みますと8:15に「あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだれをもさばきません。」とあります。

唯一、罪を一度も犯したことの無いイエス様でも、人を裁かいはっきり言っているのにクリスチャンのなかで人を裁く権利があると思っている人がいます。イエス様はこの教えを自分の信者に対して言っています。つまり、クリスチャンになってから、偽善者にならないように気を付けなさいと言っています。

イエス様のように哀れみ深い人になる為に、他の人の欠点を見ないようにして、どうしても、避けられないような事で見たら、その人を批判するのではなくて、執成しの祈りをするのがイエス様の哀れみ深さを実行する事です。イエス様はその女性の罪や欠点を見ないようにしましたが、指導者達はしつこく繰り返して訴えていたから、仕方なく身を起こして答えました。それでも、被告人の女性を赦して救いに導きました。この箇所はイエス様の美しい人格をはっきり見せています。同じように私達が人に対して赦す心を持っていたら、イエス様の美しさが私達を通して表されます。未信者の一番出来ない事は赦すことです。その意味でクリスチャンにとってイエス様の美しさを一番表す機会になります。

厳しい事を話したくありませんが、今日の箇所には避けられない警告が含まれています。

イエス様は一人一人の信者の気持ちを全て分かっているだけではなくて、共にその気持ちを自分の一部として受け止めて下さいます。それで、最後の審判という裁きの時に未信者に対して大変厳しい、恐ろしい事を言います。

マタイ 25 : 44 - 46 「そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渇き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』 25:45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』 25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰には入り、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。』

最後の一部しか読む時間はありませんが、32節から読めば、これは、最後の審判の時にイエス様の信者に対してされた事と言われた事をイエス様が裁く時についてです。

それではクリスチャン同士はお互いに対する言動は裁かれないのでしょうか。その答えは今日の箇所です。八の至福と山上の垂訓の教えは全てイエス様の信者に対して与えられています。

第一ペテロ 4:17 「なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょうか。」

これを聞いて怖がるのではなくて感謝する事です。なぜなら、イエス様の信者は世と一緒に罪に定められない為に今この地上で裁かれる事があります。それで、イエス様は「さばいてはいけません。さばかれないためです」と教えて下さっています。余分の苦しみを自分に招かないように気を付けなさいという意味です。

脅しや脅迫の意味ではなくて、いつも、何があっても、平安で過ごして欲しいからこう言っています。残念ながら多くのクリスチャンはこれが分かかっていなくて、イエス様の信者になっているのに、心の平安がなく、逆に鬱になって病んだりしてしまう原因の一つになります。もちろん、すべてのクリスチャンの鬱はこれが原因とは言いませんが、少なくないと思います。更に一番ひどいのは人に対して赦せない思いを心に抱く事です。主の祈りの中で唯一イエス様が繰り返して強調した事です。「人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。」(マタイ 6 : 15) もう一度言いますが、これは脅しではなく、裁きを自分に招かないでいつも平安に過ごすのが神様の御心です。永遠の裁きを受ける意味ではなくて、今、余分の苦しみを自分に招く理由はこれが霊的な法則です。神様は、信者だからと言って見て見ぬふりをする事が出来ません。

ヤコブ 5:9 「5:9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってははいけません。さばかれないためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。」

誰に対しても裁くような言葉を言ったり、または裁くような態度を抱いたりしてはいけません。特にイエス様の信者に対してそれをするなら、イエス様自身に対してしている事になります。

### 3. 哀れみ深い人の祝福

マタイ5:7「あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けるからです。」

既に少し触れましたが、神様の裁きの下にいる立場から、神様の祝福の下にある立場に移されま

す。  
ヨハネ3:16-18。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています。」

「御子を信じる者は裁かれない。」という事は罪に定められないという意味ですから、永遠の命が与えられています。この箇所は最初から最後まで誰が永遠の命を与えられるか、そして誰が永遠の滅びにいくかを教える為に書かれています。

でも、この5番目の至福はそれだけの意味ではありません。そこには一番目から、「心の貧しい人は幸いです。天の御国はその人のものです。」と書いてあるので、最初からイエス様の信者に永遠の命が与えられています。イエス様はこの八の至福を通してこの地上で永遠の命と一緒に全ての信者に与えられている全ての神様の祝福を教えて下さっています。それで先週は神の国と神の義を与えられた上にそれに加えてこの世の中で生きる為に必要なすべての物も与えられますと一緒に見ていました。この地上で神様の哀れみを受ける祝福は、完全な赦しと全ての悪からの清めです。それによって今、罪悪感や過去の罪による罰（ばち）や呪いというようなものから完全に解放されて、いつも平安の中で生きる祝福です。

先週のメッセージの最後に1st Timothy,第一テモテ6:6を読みました。「しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。」言い換えれば、「人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」どんな時でも健全な心と精神状態を保って生きることです。

どんなものにも振り回されない生き方が出来ます。今の時代は情報がありすぎるぐらいで多くの人は振り回されて神経質になり、不安や恐れの中で生きています。神様の御心は自分の子供達がいつも、どんな事情があっても、平安の中で過ごす事が出来る事です。

コロサイ3:15「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。」キリストの平和と訳されている言葉は別の場所で次のようになっています。

ヨハネ14:27「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」

その為にイエス様を信じるように召されているとはっきり書いてあります。これが哀れみ深い人の祝福で、永遠の命と一緒に今この地上で受ける祝福です。

ローマ 8:31-34「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。8:33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。

私達を罪に定める事が出来る存在はどこにもいません。

ヘブル7:25「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」

### まとめ

聖書では一番多く繰り返して書かれている命令です。恐れてはいけません。イエス様は山上の垂訓で言葉を変えて同じ事を強く強調しています。心配してはいけません。また今日、最後に見た箇所では同じ事をさらに違う言葉で語って下さっています。心を騒がしてはなりません。